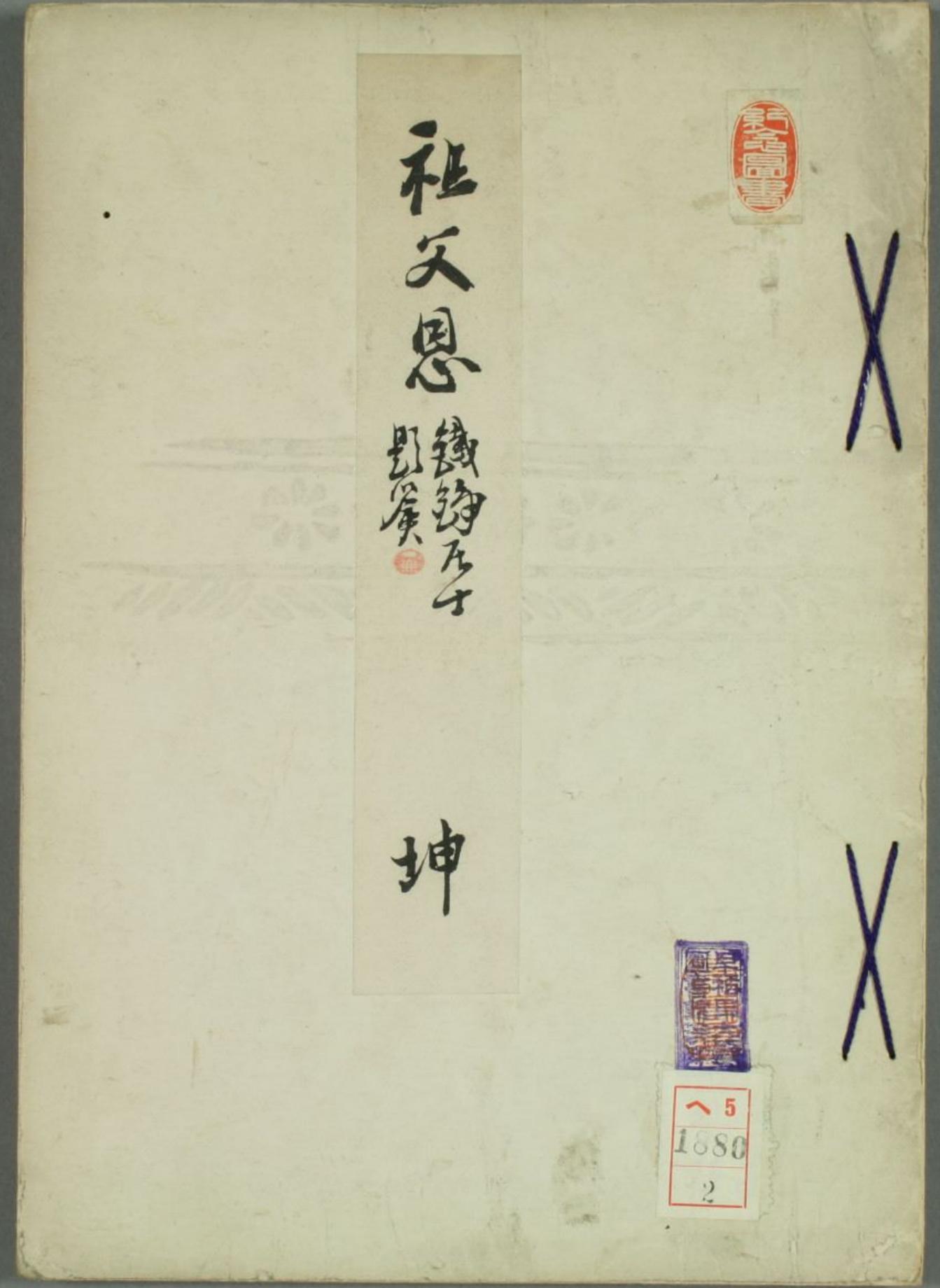
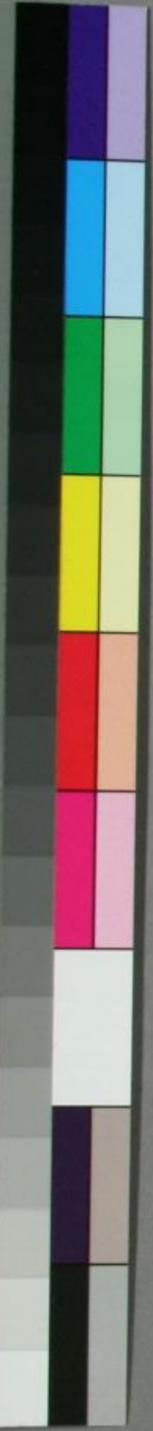


KODAK
LICENSED PRODUCT

KODAK Gray Scale

A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19



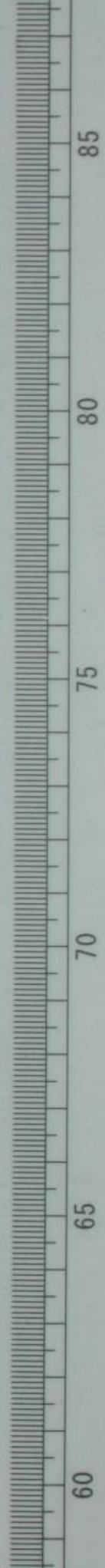
社父恩

鐵錫
野峯

坤



5
1880
2



60 65 70 75 80 85

まゝのり子よよかろしー花木のお後
こゝはつゝまゝくんの身乃つゝよ熟ま
席又れ海もも那うたは他若めくすみの
かゝり古板回乃身索もれ阿やしゝ

日井そ水

記とこよ五五四年亥日 深中一書

Faint bleed-through text from the reverse side of the page.

本是霓裳隊裏僊當場歌舞最
爭妍今朝檀板聲何慘着得斑衣
淚潜然 自家裝束自家情惆悵春
風奏管絃演到琵琶湯藥劇
琵琶記湯藥一劇為
蔡老兒臨終情甚悽惻 不堪回首憶當年 小詩二章應

尾上梅幸詞友之属

乘桴散吏初稿



夏懐旧

古筆三寸付

じつとよき夏は...
花は水の...
本は...

秋

趣涼歩

小園

井一泉

手自

汲深澆

礫色蓮

秋端黄

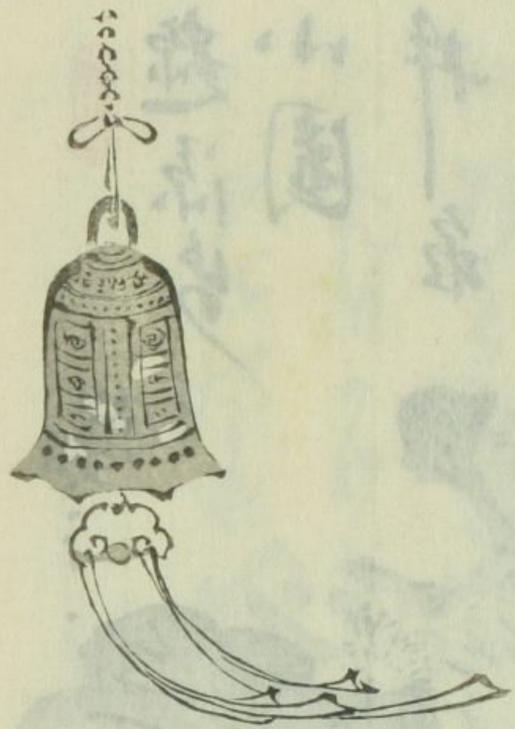
一多汁の菊...

秋



應無所住而生其心

三



雪庵

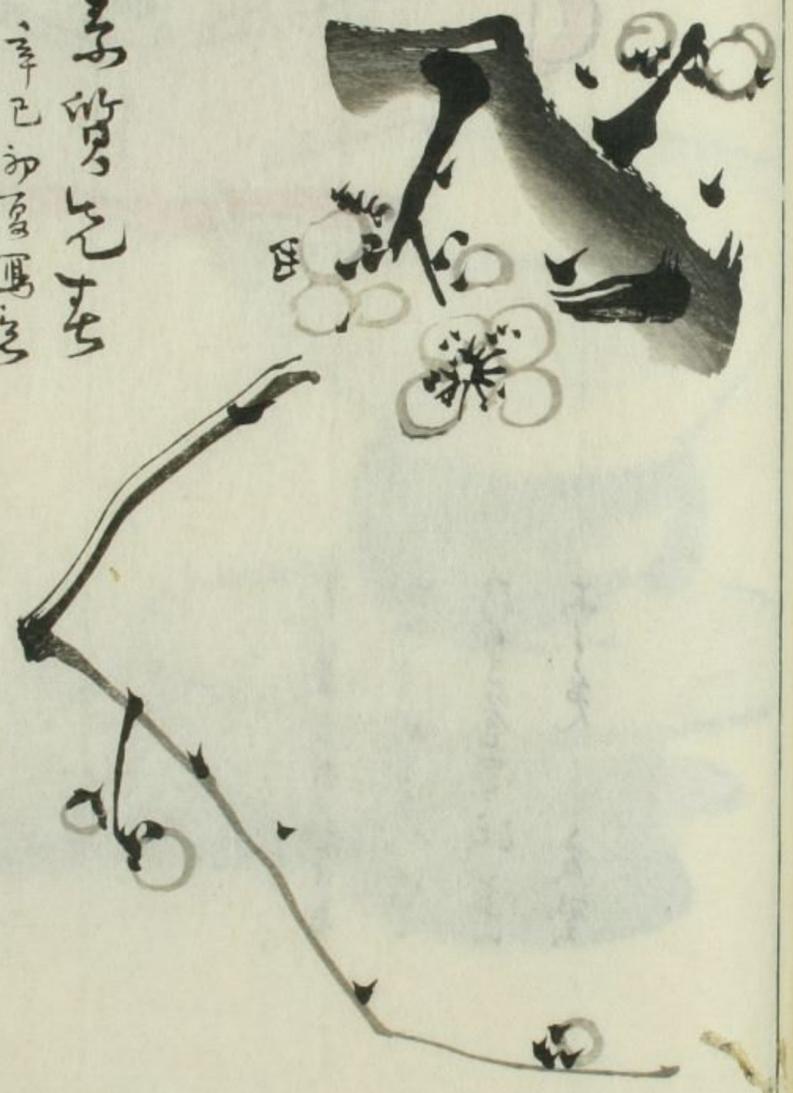


江堤仍野岸
滿枯茨一
腰綠東君
來

松塘釣史



高竹先生
 辛巳初夏馬之
 堂貞尾生
 梅子大人追物



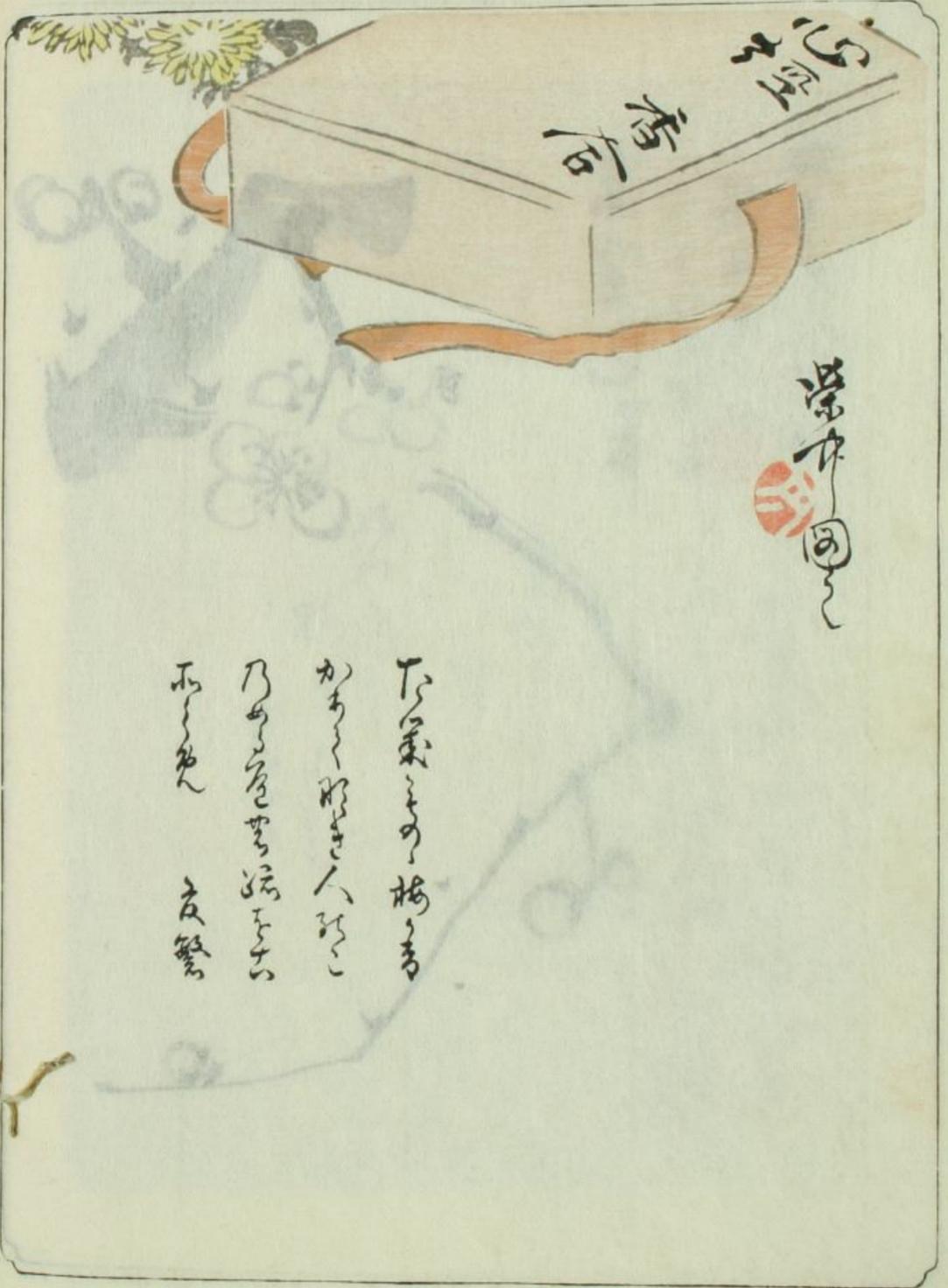
情向
 誰とていふは
 何のよ^い物^か

梅子
 追物

此の
 梅子
 追物



鳥女

鳥女
 梅松

鳥女


下は葉の梅の香
 かち〜梅松人〜
 乃ち〜名を梅松とす
 而〜也 友繁

黑白青黃何據擇 東西為事
 小在縱橫功名局 似帳生新
 福福輪旋水鳥行 銀甲香
 殘世幻影本真風 過有出
 聲 換前垂柳 卷 暗標



真哉



外画花灼、明

明治辛巳五月幸於京行處
而寔為標幸雖見之屬

宗梅主人

畫

此画在... (faint vertical text)

楊善居士自作之有依之類
香阿沙招瓦



面影乃

沙

羅漢

郭



惟之





高秋木落洞庭岳
 陽城南多晚風蛟龍
 夜獲玉壇古劍影長
 留月明中 万卷



千代見草門一名梅幸年表

梅曆山人筆記

五代目尾上菊五郎ハ十二代目市村羽左衛門妻ハ三代目尾上菊五郎の次

男弘化元甲辰年六月四日の産以て幼名を九郎右衛門と云○

嘉永元戊申年十月碁盤忠信雪黒石當顔見世番附へ初めて若

太夫市村九郎右衛門と名前を出せり○同二己酉年正月青砥調

○同年四月惠閑初復藤小齋の者橋の市松今年六才ふて初舞

臺と勤めしが梅檀ハ二葉より香はくせりふ廻しも閑語よく成

人の後ハ一廉の役者ふちるに疑ひあると皆人言はやせしが

果して今一個乃大達者となるまじり○同年五月むらがさ盛衰記小

木曾の公達駒若丸○同年八月詞花紅成盛小神田の与吉○同



年九月紅成盛後日狂言カネナガ餘波五色花魁香アノト近江源氏アノト鬼一紙治カキちと
 時代世話一幕物の真行○同年十一月又々腰越コシ状阿波の鳴戸ナリド辰
 駕カビの淨瑠理ヨシと出イ此コ二ニ替カり役やくち○嘉永三庚戌年正月澤瀉ササ
 鑑カミ長者チヤウ小万壽君賴家公○同年三月好色嶋田語コウシキ小足利の公達
 鶴喜代丸○同年五月忠臣藏チュウシン五十三紀イハ塩冶の嫡子為若丸○
 同年六月忠臣藏後日狂言チュウシン増補四津谷怪談ゾウホ前マ同ト○同年七
 月菅原傳授スガハラ手習鑑テナリ小菅秀才○同年九月操り狂言取交ツキ月雪花
 蔣繪見臺シヤウ二代鑑ニダイ小秋津アキツ寫一子國松○同年十月キ碁イ太平記達升形
 以武隈治郎藏人子常若丸高野物狂タケノモノひの場評判マよ○嘉永四
 辛シ亥年正月蓬萊山世嗣曾我ソウ當春羽左衛門改竹之丞九郎右工門
 改羽左衛門八才ハ才サ小コ十三代目太夫元タとトなる曾我小方壽君賴

家壽狂言以見物左衛門の所作事と勤む○同年二月假名手本
 忠臣藏チュウシン大切淨瑠理テウ明烏花濡衣メイウ小浦里の禿ハゲみぶり評判ハよ○
 同年五月戀相撲振袖コイ妹背イモ小役セち○同年六月一束ヒトツ夏花籠ナツ竹
 之丞名殘狂言シ一谷嫩軍記イツ大切所作事テウ松竹梅名殘島臺マツ小禿ハゲゆ
 か○同年八月上坂の望と達せず父竹之丞没シ○同年九月
 源氏ゲン模様娘ヨウ雛形ニハ小朝霧の小性薰○同年十一月花ハ艳ン高良重賀紀カウ
 娘景清八メ島日記シマに義經の公達今若丸○嘉永五壬子年正月里
 見八ミ犬イヌ傳デン淨瑠理ヨシ袖ス儿帳誓別朝妻セ小曾我の箱王丸○同年三月
 隅田川スミ對高賀タカ紋イ小主水娘ヌか徳大切トク京鹿子娘キョウ道成寺ミチに立波五
 郎○同年五月新造シン艦奇談ケンに役やくち○同年七月名ナ譽ヨ仁政錄ニ小
 役やくち○同年九月金毘羅利生キン稚チ雙サウ小源八一子坊太郎大出來

にて評よ〜○同年十一月（鷓山姫捨松）に役なり○嘉永六癸丑
年正月（里見八犬傳）に役あり○同年三月（花吉田岩尾松若）大切
所作事（四季寫手向花籠）ふらんらまいの仲居○同年五月（意東
繪懸額）義經千本櫻（道行に鮎賣の若衆）○同年九月（假名祝嫁娘
復讐）ふ吉岡の一子三之丞後日狂言（御所櫻堀川夜討）ふ亀井六
郎○嘉永七 甲寅年三月（梅柳魁雙紙）浄瑠理（梅艶解仇夢）ふ櫻草
賣鳴吉○同年五月（假名手本忠臣藏）戀女房染分手綱（志福ん
およの三吉）大切浄瑠理（六歌仙容彩）にかくまん坊○同年閏七
月（繪本更科譚）ふ更科一子鹿之助○同年九月（八陣守護城）安達
原（妹背山）道行に事觸橋内大切所作事（拙詫菘種蒔）に太神樂鶴
松○同年十月（青砥稿）浄瑠理（邯鄲）に賤の女おむら○安政二乙

卯年三月（鏡山再盛花碑龜）浄瑠理（祝言鞞猿曳）ふ猿○同年五月
（五人男諫膽渎俠）ふ山川屋の心のち千吉○同年六月（機罨目視
敬案）ふ奴橋平○同年九月（木下蔭碗伊達染）に清水の児龜若○
今十月二日大地震あて遂に芝居も類焼あり暮より普請お取
掛り〜が木材拂底の砌故長谷川勘兵衛工夫せり〜龜甲梁
とゆふを用ひたり○安政三 丙辰年三月（鶴松扇曾我）夢結蝶鳥
追（浄瑠理）姿替霞假宅（ふのやまや忰金子）甚兵衛孫座頭波市母
に盗人の胤と聞き歎く所評判よ〜○同年四月後日狂言（苜萱
道心筑紫鞞）ふ重氏一子石童丸○同年七月（義經千本櫻）道行浄
瑠理（花市座初音の猿）ふ鮎汲娘おち〜○同年九月（葛紅葉宇都
谷峠）に座頭文弥妹お市○同年十一月（娼女誠長田忠孝）二番目（松

竹梅雪曙ちくばいせつじゆの吉祥院の小僧弁長○安政四丁巳年正月ねずみこじ鼠小紋東
君新形のちんがたに規賣のりうけけごう三吉。嵐小僧の隠も家へ計らば規を賣
ふ来て姉のねえが盗人うら金と貫つて入牢せし難羨るるを
嘶を内いけごう詞は真情頭にも見物一同袖を絞りは幼年
の出世役なり當狂言評判よく正月より四月迄真行○同年五月
敵討かみだち噂古市うわさふるいちは一学伴主税之助。當五月坂東龜藏烏帽子親と
あつて羽左エ門元服なり主税之助へ剃立鬘ふて勤む○同年七
月あしり網模様燈籠菊桐あじきは七五郎娘按戸のかさみ是又評あり○同
年九月なげ菅原傳授手習鑑たては苧屋姫○同年十月なげ伊達競阿國戯場
二番目大工殺いとのしげん一系時雨越路一諷ちのひんは巾着切小雀の竹。若衆の中
着切評判よし是が賊の役の初めなり○同年十一月かんげ寒替かみか普古五行寄

本ほん相中の役者ふて直安の真行。忠臣講釈大功記。膝栗毛歌祭文。
廓文章くわくぶんしょうは光秀倅重次郎。油屋丁稚久松。藤屋伊左エ門。何れも評
より○安政五戊午年三月えど江戸櫻清水清玄せんげんは庵崎末女。浄瑠理
忍岡戀曲者しのがわをくらひのせむらひは佐五兵衛倅佐吉○同年五月かみ假名手水硯高島たかしまは
大星力弥○同年七月た繪本大功記えほん二番目せんに千両幟せんりやうのぼり中幕ちゆうまく返魂香へんこんかうに
土佐修理之助○同年十月こ小春宴三組杯觴せうはるのえん白石しろいし鉢はちの木き幡はた隨長
兵衛べいゑは極樂十三○十一月こ小袖こそで曾我薊色縫そがは寺小性てらこせい恋塚求女こいづか百本
○安政六己未年二月こ小袖こそで曾我薊色縫そがは寺小性てらこせい恋塚求女こいづか百本
枕の殺し評判あり工藤天坊九祐友箱根山對面祐經代り大出
來浄瑠理じやうるりは蝶ふと全翼ぜんよく輕業けいごうに青柳要之助。輕業の上乗り橘龜吉當狂
言。故有りて鬼薊丈々預り一夜附いせは狂言を取替いせ妹背山いせ婦女庭訓にせ

役なり。○同年四月〔世界拾蝶全小紋〕小下駄の市中幕〔牡丹記念〕
海老洞〔浄瑠璃種全薩埵誓掛額〕に御曹子牛若丸。○同年六月直
安の復貞行〔総合戯場画草紙〕天徳。馬切。十人切。浄瑠璃〔影祭儀〕
俳優に天竺徳兵衛。座頭徳市。不破伴左エ門。奴林平。料理人喜助。
仕下橋又賤の男竹作。天竺徳兵衛の祖父梅壽老の傍りて木
琴の唄をうたい実小益用るる妻みく見物も感心致したり。○同
年七月〔小幡怪異雨古沼〕に太郎助後家娘かむら。穂積丹三郎。○
同年九月〔假名手木忠臣藏〕小本藏娘小浪浄瑠璃〔日月星昼夜織〕
分小祭りの多子舞新吉。清盛の小性天女丸。○十一月小至り赤垣
の別を討入。高論引上ヶ迄三幕継足シ。潮田又之丞。一色左京之進
○安政七 庚申年正月〔三人吉三廓初買〕小木屋の多代十三郎夫

の崇りにて妹と縁を結び後チ和尚吉三小殺されりまど師匠
番が米升故申分なり。○同年三月〔加賀見山再岩藤〕に左枝犬清。
花房求女。所作事〔拙腕左彫物〕に彫物の獅子の精三人石橋小
團治権十郎小あやうしぬい感心ま望。○同年四月〔名高殿下茶屋〕
聚小早瀬源次郎。年号改元ふなり。○万延元 庚申年七月〔八幡祭〕
小望月賑〔浄瑠璃〕三五須磨寫繪小伊豆屋与五郎祭りの練子
吾妻橋治。鳶の者白滝の佐吉。永代橋喧嘩の場ふる赤間源左
衛門この達人せりふハ故人梅壽の声色ゆゑ見物一同大受と
此佐吉のめぐりまると世評もよく賣出たり今年へ如何一
て々春よを引續た不入めて流石の小團治も困ト果此七月の
不入ちとバ大坂へ登るべしと密に河竹と約せしと思ひの

外より大入申早魃小雨と得し如く一座挙つて悦びしは
ひあきば災ひありと八月末の類焼をくく早速普請取掛り
年内荒方出来あり○万延二年酉年二月鶴春土佐画鞆當も佐々
木桂之助。名古屋下部鹿藏。狩野雅樂之助。浄瑠理魁若木對面
契戀春栗餅に曾我の十郎祐成栗餅の曲卷杵藏。年号改元あり
て○文久元年辛酉年五月害音纏漆分浄瑠理時鳥隻臙夜も井
筒屋新助。伊達の若徒逸平○同年七月東驛いろは日記浄瑠理
夢結露轉寢小依藤与茂七。飴賣満松。水木辰世実ハ猫石の怪。鳶
の者橘の鶴吉。天川屋の伊吾。浄瑠理の飴賣ハ例の木町二丁目
乃唄と三弦と彈て諷ふのく一寸見物の氣を取り當り狂言中
での當り又猫寺の老女と若き女で勤めしは是も梅壽の趣き

有りて評よし○同年九月本朝廿四孝中幕鬼一法眼三略卷二
番目名相續信田嫁入ハ長尾三郎景勝。草履取虎藏実ハ源の牛
若丸。奴狐勘平。○同年十一月菅原傳授手習鑑ハ舍人接丸。判官代
照國。接丸大出来腹切まを申分あり○文久二年壬戌年正月戀結
團扇伊達翅以足利左金吾頼兼。大工かしくの六三実ハ嶋田十
三郎。浄瑠理六歌仙容彩ハ在原の業平。祇園乃お梶○同年三月
青砥稿花紅彩画中幕魁源平躑躅二番目助六由縁江戸櫻青
砥稿ハ信田小太郎実ハ弁天小僧菊之助。早瀬の娘お浪実ハ弁
天小僧。此狂言ハ豊國翁が筆と揮ひし錦画の容と種ハ脚色し
と致弁天小僧ハ羽左エ門ハお打て附の役柄故申あり場あり山
門の權ハもどきの立腹まを申分あり大出来ありて取分け白浪

五人男の目さきが替って評判よく是も一ツの當り狂言あり○
同年五月（菅蒲合仇討講談）大切（猿廻門途の）一諷（石井兵助）道具
屋与兵衛。井筒屋傳兵衛○同年八月（月見曠名画一軸）に梅咲屋
小七。二番目大切亡父竹之丞十三回忌追善所作事（法四季紙家）
橋拙（小鞍馬山の）小天狗。曾我の十郎祐成。玉菊の亡霊。願人家
掘坊。鴛鴦の精。相子（名にあふ）芝翫也。何事も出来よく面白き
事あり小天狗の宙乗玉菊の亡霊の祖父菊五郎傳未曾我の祐
成鴛鴦の精の亡父竹之丞の餘風あり分けて當世とりづつ
願人の道樂寺の木魚の音に響き氣と取るるの若子の一人也
○同年九月（むかひ盛衰記）二番目（花川戸未熟者中）に船頭又六。
白井權八○同年十一月（碁太平記）白石（中幕）熊野（靈驗車街道）

二番目（銘全傳讀切講釋）白石（斬小宮城野妹志の）ふ跡役あり○
文久三（癸亥年）二月（蝶千鳥須磨組討）二番目（三題吐高座新作）に
無官の太夫敦盛。熊谷の小次郎直家。祐康の一子箱王丸。大國屋
の抱千山。巾着切竹門の虎。當春より辻番附紋番附共市村家橋
にて書出りの次へ出り奥座元の居所へハ只一役羽左工門名
前あり出を○同年四月（花卯木伊賀両刀）小譽田大内記。柘榴武
助。腹切の大役と能たまさき（は）と大切浄瑠璃（戀計文珠智惠輪）
に江口乃君。放下師市八○同年六月（皿屋舗化粧姿見）二番目（傘）
轆轤（浮名濡衣）皿屋舗小高岡藏人。こゝ元お菊。同亡霊。三上の
胴六。お菊の役ハ小團治がと取て教へるゝの責らるゝ内の仕
打万端米升其終めて申分なく又胴六の銜り水車の立廻り小

多利の志評より〇同年八月〔竹春虎溪三笑〕二番目〔茲江戸小腕
達引〕浄瑠理〔女夫團子月能中〕薄雪に園部の左工門。藤栗毛み
旅篋屋の娘小町のわつん。二番目小男達曙源太。此源太の當り
役にて義理ある兄の小園治へ愛想はのしと言ひ真身の姉の
菊次郎に位牌を異見を言ねる所へ一日の見所めて真情を迫
りて泣ぬ者なり〇同年十一月〔假名手本忠臣藏〕に桃井若狭之助。
ありえわかる。矢藤与茂七。芥定九郎。九段目の力弥。大切浄瑠
理〔歳市廓討入〕より大工由右二門子分与吉。義士の討入の有さま
と浅草市の准へ一笑し浄瑠理なり〇文久四甲子年二月
〔曾我綉俠御所達〕に巴之丞妾時鳥一齋下部切平。雪枝小織之助。
大切浄瑠理〔柳糸吹矢糸條〕に曾我の五郎時致雷。右役の内大出

來ハ巴之丞の妾時鳥と小園治の百合の方の責殺さるる處評判
よく時鳥掛といふ根柢流行たり當春より書出りの座み居たる
〇年号改元は元治元甲子年八月〔一谷凱歌小謡曲〕二番
目〔月出村廿六夜調〕に傾城連実の薩摩守忠度。玉屋新兵衛〇
同十一月〔小春穂沖津白浪〕に田舎娘おむら。実の盜賊小狐礼三。八
重垣礼三郎。実の小狐礼三。雪月花三段返しのたんまり。田舎娘
を引抜き美々しき縫の四天おたり。六法めて引込まの花やあ
らるる更あり〇元治二乙丑年正月〔鶴千歳曾我門松〕浄瑠理〔一休
地獄斷〕に不破伴作。修驗者金剛院。男達野晒悟助。彦三郎故ありて
久しく市村座へ出勤せざるゑ浮世戸平と野晒悟助と男達の出
入の場へ團藏の六字南無右工門が苗お入り吸筒の酒で仲直りせ

させる所具負連の気ぬ叶ひて評判よ。又、年号改元あり。○
慶應元^乙年五月（菅蒲太刀對俠客）小楠姑摩姫妻笠小夜次郎。浄瑠
理（忠臣藏形容画合）小桃井若狭之助。奴橘平。早野勘平。人形遣ひ西川
伊三郎。種ヶ島の六。豊竹渦尾太夫。近年ありき大浄瑠理はく何色も
評判能き中にも仕馴色ぬ業の人形遣ひと七段目の出語り、常乃
器用と言ひ多し急替古くて感心く。○同年八月（娘評判善惡鏡）中
幕（繪本太功記）小明智十次郎。五人女。老む。里のお熊。浄瑠理（貸
浴衣汗雷）延壽太夫獨吟。小奥女中竹川実。すむ。里のおね。ま
かういふ役の家の物も五人の内にて一番評よく此時共々評の
よき夕立の獨吟。延壽太夫が大坂で土産の語り。節が残り今
も彼地を語ると。○同年十月（芦屋道満大内鑑）奴与勘平。柏木民

部之助照光。淀川の船頭浪六。大切浄瑠理（滑稽俄安宅新辭）小畑
草屋源七。飛脚助平。○慶應二^丙寅年二月（櫓太鼓鳴音吉原）浄瑠
理（有姿夢湖水）同二番目（鼠啼色逢夜）盜賊東國太郎。飛脚渦平。
おろつき鷲の長吉。三浦屋の新造胡蝶。実の薄雲の猫の怪。此新
造大出来にて氣と猫のころな。で家根の上乃立廻りが育との事
ゆゑ樂しむしが相子にあらむき彦三郎が嵐の吹替と出せ。くバ
折角の趣向を失ひ残念なる事あり。○同年四月（伊達競阿國戯場）
二番目（蝶全孖梅菊）荒獅子男之助。嘉藤治。髪結濡髪長五郎。
野子の三実。引窓小僧長吉。○同年七月（假名手本忠臣藏）小桃井若
狭之助。早野勘平。石堂右馬之丞。たのと持橋八。天川屋のどろお伊吾。尾林
平八。佐藤与茂七。○同年十一月（雪武智一座初役）むらさき盛衰記。小森

の蘭丸。けいせい梅ヶ枝。無間の鐘の人形振り評よ。○慶應三丁卯年
二月〔契情曾我廓龜鑑〕の箱根山女夫杉の精。賤の男湖水の渦松。船頭、
大蛇丸の辰。三浦屋の契情岩藤。同新造初菊。多跡指南伊太八実の菴
崎求女。奥州屋の多代礼三郎。大切浄瑠璃〔質庫塊入替〕よ奇妙院
塊入替傳書の精。今年ハ無人みく若手ハ家橘田之助の故柳島よ引
籠り、左團治と再勤させ龜藏三十郎と後ろまよ名に初め芝翫彦
三郎拵持の両座と敵ハ家橘田之助奮發たり。岩藤。初菊。伊太八の
三役と一日代り小勤め出情ちりせ。功頭も両座と同様大入るせハ兩人の
手柄あり。○同年五月〔善惡両面見手拍〕よ妙心寺の僧日章後。ころつと
和尚次郎。葛飾治郎三郎。魚賣新助妹ハ百後。徳兵衛の妻ハ百。藝
者小三後。千葉家の妻ハ秀の方。実ハ姐妃のハ百。當狂言ハ兼てより

田之助ハ姐妃のハ百家橘ハ和尚次郎と勤むる積りで脚色。○
田之助ハ足病發し遂ハ出勤成り兼。うハ無處二役と家橘ハ獨り
で勤め。うハ其甲斐もなく無人ハ中入る。うハ残念なり。○
同年七月〔新累女千種花嫁〕中幕〔音響音藤戸濤〕ハ与右工門娘累。女按
摩ハる。ハ累の亡霊。浮洲の太郎。大切四代目市村竹之丞百五十
回忌追善所作事上之卷〔諷全法燈籠〕下之卷〔登全色大山〕ハ見物
左工門。唐人館ハホ。人形遣ハ。兔。大山参り斧琴の菊松。唐人館天ハ
登る。の宙乗り燈籠扱ハの早替り兔の所作道具替つて惣出の大山
参り勇ハの拵ハのり。ハ評よ。○同年八月〔誓古筆七いろハ〕ハ
高の師直。石屋五郎太。ハ早野勘平。千寄弥五郎。中垣源藏。五郎
太。ハ梅壽の併。ハ源藏ハ又米升の趣き。何りて何でも出来る。

善用役者實に後世恐るべく大切の追善の所作に當真行(残り
たり)○同年十月[大江政談雪墨附]中幕[源平布引捲]大切[嬬山
姥]觀音院の弟子法策後天一坊。鈴鹿山の魔王坊實に伊勢三郎。
萩の屋八重桐。天一坊の年齢といひ仕打万端大出來たり○慶
應四戊辰年三月[隅田川鶯音曾我]小天狗小僧霧太郎後けいせふ
花子實に吉田の松若丸。奥州屋のち代業平礼三。鶯の者水髮伊
之助。松若のちまり役の志申分ちかお賤礼三の後日狂言子役
とかせに愁歎の情に迫りて見物一同袖と濡さぬ者いなり○
同年五月[里見八犬傳]中幕[偽織襪襪錦]二番目[伊勢音頭戀寢又
犬塚信乃成孝。犬田小文吾悻順。神原佐五郎。福岡貢。十人切ハ血
筋の忍自然と梅壽の保有りて信乃小文吾も増りて評よ○同

年八月伯父龜藏の進めにより茅竹松へ太夫元と譲り則十四
代目市村羽左工門と改名あり家橘の祖父の名を嗣ぎ五代目
尾上菊五郎と改名ちなり[梅紅葉錦伊達織]二番目[芦屋道満大内
鑑]大切浄瑠理[執集月雪花詠草]小仁木彈正左衛門直則。道益下
男小助。彈正妹八汐。奴与勘平。寂明寺時頼。名古屋山三。何きも評
の能き内にも小助の祖父の當り狂言改名の光り頭つれて小助の
一段大出來たり○年号改元有て○明治元戊辰年十月[假名手本
忠臣藏]中幕[檀浦兜軍記]二番目[猿友門途の一諷]大切[其俵花鞍
當]小高の師直。四段目の判官高貞。早野勘平。斧定九郎。岩永左工門
宗連。井筒屋傳兵衛。名古屋山三。○明治二己巳年今年ハ三座割振
りに依て中村座へ出勤ちか座頭を勤め當正月狂言[鼠小紋菊重扇

塗中幕ツキのうらめげのうげきよ〔月梅惠景清〕浄瑠理じやうるり〔魁梅幸色秀姿繪〕くわいばいしやうしやう小修驗者頼家。菊地兵庫之助きくちへいさのすけ實ハ怪嵐の具。稻葉幸藏いなばしやうざう實ハ治郎太夫。賣卜者寺島梅山うらふしやう實ハ治郎太夫。景清娘人丸。工藤左工門祐經。風玉賣ふかぜたまうの五六。○同年四月なるとし〔百音鳥雨夜簑笠〕二番目ひやくおん〔忠孝武藏鑑〕ちゆうかうぶざうかん小加古川清十郎。大松屋清七。柴田修理之助勝家。○同年七月おととし〔吉原糸由縁音信〕二番目きちがわ〔大都會成扇繪合〕たいていせいせんえがひ小湯灌場小僧吉三。小堀の召仕こほり杉非人土左工門傳吉。金貸座頭徳市。白酒賣新兵衛。髭の意久ひげのよしひさ實ハた以て持菊八。此八百屋於七湯灌場吉三ハ乾坤房良齋が世話講談の一種いっしゆハ能人の知る所よあり。當時かやうな世話物の梅幸が得る故に大出来おほいみて評よひやう。○同年十月おととし〔相馬禮音幾久月〕二番目さうま〔契情返魂香〕けいじやう浄瑠理じやうるり〔名画揃俄の番附〕ながゑぞろひあつ小相馬太郎良門。善知鳥安方。安

方の亡具。猪口の猪口平いのしし實ハ相馬太郎良門。狩野雅樂之助。祭の練子八重梅の幸吉。善知鳥の世話場道具替りせわばめて地獄に成り鳥類に責らせる所評よひやう。又猪口平の一寸法師ハ米升其俣こめあがりめて大出来おほい。○明治三庚めいし午年正月中村座〔秀水仙梅幸曾我〕しゆせんばいしやうそがに大藤内成景おほふじ實ハ近江の小藤太成家。曾我の十郎祐成。工藤左工門祐經。髮結和國橋の藤治。當春より守田座二番目ふじへ出勤同月守田座しやうでん〔館扇曾我訥芝玉〕くわんせんそがのつたしやまに弁天小僧菊之助。初めての時より念々入りて見栄みえへおほいり。○同年三月中村座〔徃古模様扇重縫〕二番目しやうこ〔梅曆辰巳園〕うめいれん浄瑠理じやうるり〔大和谷滝音羽湯〕おほやまと小男達御所の五郎藏。巴之丞やのじやう愛妾時鳥。唐木谷五郎無三四。糸の仙人。瓜琴屋丹次郎。○同月守田座〔樟紀流花見幕張〕かぢり二番目〔家櫻廊掛額〕いへざくら小花川戸の助六。同年五月中村座〔鬼

薊伊達染締あきいだけぞめに極樂寺の所化清心後、鬼薊清吉、仁木彈正直則、同姉八汐。○同月守田座しゅでんざ〔花菖紀念画雙紙〕二番目にばんめ〔時鳥水響音〕に道具屋与兵衛みちぐいや実ままむ一の次郎吉。此二番目ハ文久年間世ハ流りゅう行せし三題吐さんだいどのト、ヤの茶碗の筋すぢを其終世話狂言ハ脚色きゃくしやく一ハ惜おぼしひの序幕じよまくきりりて跡あとを見せばハ仕舞しまいふたり。○同年六月同座どうざ復狂言ふくきやうげん〔焯音魁糸紀花轡〕小船頭こふねづか天竺徳兵衛てんてくたけべゑ実ま宗觀むねみ一子大日丸ひるひこ座頭徳市ざとうたけいち実ま天竺徳兵衛てんてくたけべゑ不破伴左工門なはなばんざくもん重勝じゆうしやう実ま天竺徳兵衛てんてくたけべゑ○同年八月中村座なかつむらざ假名手本忠臣藏かみやまてほんちゆうじんざうに高たかの師直しぢく早野勘平はやのくわんぺい寺岡平右工門てらおかへいごもん佐藤与茂七さとうよもぢ○同月守田座しゅでんざ〔狹間軍紀成海録〕小郡幸内せうのりゆきうち水間みづま左京之助さけいのみすけ幸内ゆきうちの拷問ごうもん左京之助さけいのみすけの討死うちじ二役共評にやくきやうひやうよ。○同年十月中村座なかつむらざ〔義經千本櫻〕手向山てむかやま絶幣てつぺい〔檀浦兜軍記〕浄瑠理じやうるり〔男達六

初雪はつゆき小佐藤四郎兵衛忠信ささふぢうべゑちゆうしん源九郎狐げんくわんこ相摸五郎さうもごろう舍人接丸せにんせつまる男達天人吉おとたちてんじんきち三さん○同月守田座しゅでんざ〔群見成戀情紀譚〕ハ行岡幸左工門ゆきおかゆきざくもん信濃屋しんのうやおもん二役共故人にやくきやうごじんの傍かたわらりて評ひやうよ。○同年十月中村座なかつむらざ〔双蝶全曲輪日記〕中幕なかつまく〔神免流自在鍋蓋〕小故色駒ここしきこまの長吉ながきち○同月守田座しゅでんざ〔高嚴陣帰朝入艦〕二番目にばんめ浄瑠理じやうるり〔鐘音雨古墳〕小菴崎求女あまざきもとめの灵たま寺男てらおとこ寺寫長てらなが吉きち。神主雨成かみぬしあめなり。○明治四年めいしやうしに年今年ハ書出かきだしめて中村座なかつむらざの多おほ出だ勤きん正月しんげつ〔薪曲輪七種紋目〕二番目にばんめ〔本調子糸音色〕大切たいせつ浄瑠理じやうるり〔画音えおん音春錦〕小渡邊小左工門わたべのこざくもん一子四郎三郎いしよじうしやうざう七草四郎利貞しちくさしやうりてい稻倉苗膳いなかむなぢ之助のみすけ。鳶とびの者ものお祭りまつり佐七さしち。曾我そがの五郎時致ごろうときぢ。奴やつ。お祭りまつり佐七さしちハ申分まをわち。浄瑠理じやうるりの奴やつハ是迄こゝまでと違ちがひ新工しんこうまゝて宙乗ちゆうのりのまゝと横よこに廻まわりは故色こしき業具ごうぐ負連おんづら小膳こぢと冷ひやさをたり。○同年三月ねんねんしがつ〔鶴亀曙摸様〕

初筮^{はつし}は三浦荒次郎義澄。召仕お初。大切坂東龜藏一世一代の所作
事^{こと}〔壽名残嶋臺^{じゆなごころ}〕お梅津掃部之助。茂林寺の住僧林鶴。田舎娘おふく
まへ茂林寺の古狸。此一世一代の所作事へ悴菊之助足利の小性菊
若小く初舞臺今年五才なり。○同年七月〔義士外傳復讐鑑^{ぎしがいだん}〕は赤
垣源藏。芥定九郎。小の寺十内。大切浄瑠理〔生木偶花洛名所^{いきぐわらな}〕は白
拍子熊野。氷商人梅吉。○同年九月〔東海奇談音見館^{とうかいきだん}〕浄瑠理〔競天
三保松羽衣^{さんほまつは}〕お盜賊の張本二本駄右エ門。天竺阿羅漢那迦犀那尊
者。嶋原の傾城薄雲。玉島幸兵衛。山猫の怪。白拍子浮嶋。穀物屋の
名代善九郎。月本の家老磯貝民部。當狂言の梅壽が名代の東海道
五十三次へ新案を加へて通し狂言其中お目新のしは頭巾袴形
その座頭が捕手掛りて頭巾を取ると五十日かかると袴下駄と其終は太

小と差く浪士の拵^{かま}お成り月落烏鳴の唐詩選を幕内で吟声させ
花道へ引込^{ひきこ}い新趣向を大受なり。○同年十一月〔義經千本櫻^{ぎけいせんぼんざくら}〕はなまり
の場お金毘羅参り長吉。いがしの權太。九郎判官義経。浄瑠理〔神有月
色世話事^{いろのせり}〕お銘賣かん子。○明治五^{しち}申年正月〔梅妮婿浪花扇記^{うめめかけななはせんぎ}〕二番目
戀慕相撲春顔觸^{こいすま}お三浦長門守重成。浪士鶴太郎。船頭鶏の長吉。葛
飾十右エ門。お坊主幸治。洋学の書生寺嶋松雄。大切所作事〔六歌
仙姿拙^{せんすいせ}〕お茶汲お女祇園のお梶。一番目長門守判元見届けの如何々と
思の外近年での大出来二番目の長吉のなまり役ゆゑ申分あり。○
同年三月〔病櫻志らぬ以譚^{やまざくら}〕二番目〔白柄黒手廓達引^{はくまじろ}〕は鳥山犬千代^後、
秋作照忠。花野村の千種^実。鳥山秋作。捨華寺の鐘樓守頭念。黒手
組花川戸の助六。○同年五月〔濃染菖蒲帷中幕^{こいぞめ}〕實說菊夜話^{じゆつ}二番

目ぞうり増補浪花鑑ななな小横山大八。淺山の召仕お菊。同お菊の亡霊。一寸徳兵衛。三河屋義平次。大切浄瑠瑠うらら淨廓意善惡いぜんあく。西洋の曲馬師スリエ。目新めしんく評判より。○同年七月なつ源平魁き莊士し二番目にばんめ於岩稻荷いこのり驗けん玉櫛たまげ小源九郎義經。小間物屋与七よしち佐藤与茂七よし茂伊右エ門女房いゑもんお岩。小佛小平。お岩の亡霊。大切浄瑠瑠うらら夕納涼見立錦繪ゆふなげらみだてにしんえい。小草薊小文太。四谷怪談よつたにの祖父菊五郎きくごろうが初めで勤めしよ。五十年お當り。まお四代目菊五郎きくごろうめくろと十三回忌じゅうさんかいゆゑ合せて追善狂言しゆぜんきやうげんに右の三役さんやくと勤めきんめが仕掛物迄念しりぞがり入いりお家の物ものとくく申まを分わちり。○同年九月くわい鷲淵山鬼若物語しゆえんさんきわがものがたり二番目にばんめ幸后月松影さいごつきゆかりお奴智恵内おぬちえい。實まことの吉岡喜三太。鑄掛屋松五郎ちうけかやま松五郎後ご盗人たうじんいうけ松。大切浄瑠瑠うらら積戀雪關つりこひゆきせき。扉しらべお墨染すみぞめ桜さくらの精せい。いうけ松の腹切はらきりの前まへよ米升こめかきが只二日勤めきんめとまじり故

目新めしんく殊こと小道具の好このの能ののの一いっほ見物けんぶつが感心かんしんなりたる。○明治六癸酉年みえい再び座頭ざとうと勤め二月中村座なかつむらや御代春陽曆ごしろはるひ曾我そが中幕なかつまくら岸姫松書鑑きしひめまつしよかん二番目にばんめ俠客きやく次安錦繪つぎやすにしんえい。お安倍の仲磨ちゆうま。朝比奈の三郎あそひな義秀よしひで。閉坊傳吉へいぼうでんきち。大切浄瑠瑠うらら花對俄曲搗はなたいがせきうか。小道成寺せうだうじやうのワキ師梅之進うしめ。黄金餅屋こがねもちや杵藏きぞう。今年午前十時迄ことしうしじゅうじ迄まで村山座むらやまやへ出勤しゅつとんなす事ことお極り同。年三月村山座むらやまや太鞍たあ音智勇三略おんちゆうさんりやく。お鳴瀬東藏なるせとうざう。正負せいふ。權之助ごんすけの鳥井とりいと果はし合あめ出で合あい見物けんぶつ行い唾つばを呑のんで悦よろこび朝三立目あささんたちめの初はつまゝ頃ころより土間棧鋪どまげんぽ共とものりのりをいいお成なりり世評酒井よせひやうしういの太鞍たあと共に鳴響なるひびいて大人おとなあり。○同年四月中村座なかつむらや梅柳櫻幸染うめやなぎさうぜん。お鳥井又助とりいまたすけ。局岩藤くわんふじの亡魂むせたま。家老長谷部帶刀けらうちやうはせべたう。大切浄瑠瑠うらら月雪花色つきやうはないろの姿繪すがえに獵人玉藏りやくじんたまざう。岩藤いわたの蘓生そせい又助またすけの腹切はらきり先人せんじんおををくくぬぬへ手柄てしやうあり。○同年五月

村山座（梅浪花真田軍配）小本村長門守重成。權之助の片桐との
留別ハ殊の外評判よ。○同年六月中村座（花軍扇繪合）二番目（梅
雨小袖昔八丈）小上嶋主水（大澤傳八郎）。髪結新三。大切（左手
美翫（美翫）彫物）ハ郵便の配達音吉。上島の鎗の試合と流行の撃劔
會に准へハ見物の氣をとりたり又二番目乃白子屋ハ前ホ云
ひハ良齋の講談ホ仲藏の家主との出合ハ実ホ狂言との思ハ
出ハ幾度見ても倦ざる程の出來たり。○同年九月村山座（増補桃
山譚（奥州安達原）二番目（尾花比翼碑）小寺西閑心（本庄助市）大
切小十代目市村羽左衛門五十田忌十二代目市村竹之丞廿三田忌
正當。付家橋と兩人めく追善と勤む浄瑠理（花艳法音樂）小修驗
者大藤内。大山の雷。人形ホ菊川五郎三郎。仕丁五郎又。此浄瑠

理中みて見物の目と驚めせ。ハ今年六才なる昨菊之助（子雷）と
勤め菊五郎と共に宙乗りを演じた。○同年十月中村座（警毘山
新聞）中幕（艳山錦木下）大切浄瑠理（來宵蜘蛛線）龜山又小天狗
傳快（盗賊壬生の小猿）赤堀水右エ門。湯灌場買あんがら（八郎
兵衛。武井文藏。中幕大切の役なり。○同年十一月村山座（忠臣のろは
寶記）小清水一学。大切浄瑠理（廓文章）ハ扇屋夕霧。義士銘々傳の
中へ高の方の狂言ゆゑ目前きを替つて評よ。○明治七（甲戌）年今
年より守田座へ出勤三月（連歌花二見文臺）群入田鶴（病魁菊）ハ秩父
の庄司重忠。男達野晒悟助大切浄瑠理（廿三回笹画双紙）小燕人張
飛。厩別當書（音助）。○同年五月（人間館劇場繪本）二番目（新板色
讀販）小召仕（初）油屋娘（お染）番頭善六。奇麗（お染）小引替（番

頭の笑しとい案外の大出来見物一同小悦ひまゝ○同年七月
里見八犬傳中幕（義經腰越状）に犬塚信乃。房八女房お縫。犬川
莊助。源の義經。二番目（繰返開化婦見月）小春米屋赤米仙右工門。
辻道具屋天ふら銀次。此二番目の三人片輪ハ當春狂言ハ仕組にし
所都合まよりて明智と替り再び七月狂言に菊五郎が勤め
ちり天ふら銀次のいふ迄もさく仙右工門が目ふとちり先非と悔
し按摩の世話場貧苦に迫り艱難のり別走し悴の跡を追ひ尋
ねる行しステーション發車の跡で逢ふ事あふぬせの仕り
米升此方かういふ役の限り升○同年十月（宇都宮紅葉鉤衾）中
幕（一谷凱歌小謡曲）檀浦兜軍記（小松平越中守。大工与四郎。江口
の傾城連太夫。奥ハ薩摩守忠度。岩永左工門宗連。大切淨瑠理。壽

うつや猿（猿）に女大名園菊。宇都宮の与四郎ハ大出来めて評よし
○十一月に至り凱歌小謡と兜軍記を預り（福在原系圖）白浪五人男
と出し一番目と大切を残り十一月狂言ハ換わり五人男ハ弁天小僧
菊之助いづもたのぐり申分あり○明治八乙亥年今年守田座會社
と組し座名を新富座と更一月狂言（扇音音大岡政談）二番目（梅鎌
田大力巷説）小感應院の弟子法沢（後）億川天一坊。平石治右衛門。
魚屋伊之吉。大切淨瑠理（四民姿錦繪）小額面画技々の植木賣。この
大岡政談ハ名高き神田伯山生カ年頃讀し講談と狂言ハ脚色
し故珠の外評判よく近年稀なる大入浴し○同年三月（天満宮
國字撰額）に早野勘平。判官代照國。舍人櫻丸。春藤玄蕃。松王女房
千代。あゝもとかかる。大切淨瑠理（日待遊月夜芝居）小夜這星。百姓

草分五九工門。玉藻の前乃飛去りよる本家と稱へる音羽屋の音
に響き一宙乗りも其名も耻を梅幸へ祖父より遙か勝りたる
○同年六月〔明治年間東日記〕二番目〔けいせふ阿波鳴戸〕東日記
脱走の士真伴五郎。松屋のち代幸七実ハ掛川の非人幸十郎伴
五郎結召捕おちる所ハ當世を穿ち評より○同年七月〔復讐殿
下茶屋聚〕中幕〔太平記曦鑑〕大切浄瑠理〔道成寺真似三面〕殿下
茶屋ハ安達元右工門。京屋子代万助。同年十月〔筑紫巷談浪白縫〕
に紅陽院安養。同亡靈。青柳主水。庄屋幸十郎。二番目〔双蝶全曲輪
日記〕お役なり一番目の四幕目紅葉の間めく彦三郎の豊後と
菊五郎の主水が闇討おせんと切て掛り兩人闇ぐりの立廻りよる
異見の件ハ一日の眼目ハよく見る人善ぬ者ハなり○同年十一月

〔初深雪佐野鉢木〕二番目〔夜講釋勢力譚話〕お袴無保捕。馬士小佛
藤六。修驗者奇妙院。実ハ野狐勘次。○明治九丙子年一月〔善惡両輪
妙全車〕お度九郎女房荒妙。旅商人師屋幸七。実ハ船越主水。兎子魔
度六。後海賊魔度六。新聞講談師梅龍。四役共大出来めて評判の
能き其中お梅龍の講談ハ彼南龍生ガのへくくの口調とそろり
真似らるるハ急糞古とい思ひは實に感心の至りなり大切浄
瑠理〔六歌仙名家次女馬〕お役なり○同年三月〔川中嶋東錦繪〕二番
目〔昔風俗替新兵衛〕お山本勘助入道道鬼齋。古鉄買七兵衛。実ハ駒沢
七郎忠友。鷄飼九十郎。一番目の勘助の討死の場ハ芳年生ガ武
者繪と其終寫せし拵へ見物乃目々悦ませ當時若手の人気取
りなり○同年六月〔早苗鳥伊達聞書〕ハ片岡小十郎。神並三左工門

実ハ角力取鳴神峯右工門。茶道珍賀。大切浄瑠理（三社祭禮巴提灯）。小百人藝音吉。一番目の三右工門ハ小兵をれども其以前角力取で有りと云ふある一の仕打で見へハ感心當狂言ハ一座の評能引續て大入あり。○同年九月（音響音千成瓢）二番目（出世娘瓢簪當）狂言旅行あり。出勤あり。○同年十一月（天草日誌劇新聞）小渡邊四郎後天草四郎時貞。楯島甲斐守。山田右衛門。何れも評よく。今月末は惜むべし。祝融子の為ハ灰燼となり暫く芝居も休業も僕も又所用ありて梅に因りの浪花へ趣き假も彼地へト居せし故筆記の筆を止めしなり。

追加 河竹其水記

○明治十丁丑年本普請建築中更ハ同所四丁目ハありと仮普

請みて興行則四月開場の初狂言（新舞臺恩惠景清）中幕（近江源氏先陣館）ハ注進の軍兵音平。二番目（富士額男女繁山）浄瑠理（夕立墳春電）ハ書生妻木繁実ハ左膳娘おまげ後ハ神保妻おまげ大切所作事（鈴音獅子翫）ハ操り三番叟。新聞賣風鈴の音。二番目の妻木繁ハ書生姿も実ハ女に何所やらやさしハ所ガ有く左團治の人カ車夫子女と知らせは是非なくも其身をまらハ宿屋の場で達摩合羽の裏乃赤きを骸の色気みをいさハ見功者も感腹ありたり。○同年六月（一谷嫩軍記）ハ無官の太夫敦盛。熊谷小次郎直家白毫の弥陀六（実ハ弥平兵衛宗清中幕）敵討（敵討繼縷錦）二番目（勸善懲惡孝子蒼）ハ紙屑買福住善吉。寫真師北庭筑波。此福住善吉ハ親甚兵衛の罪ハ代り遂ハ横濱の懲役人とあり外役先

ふて我子み逢ひ種々艱難の喩を聞涙おむせぶ親子の真情棧舗
も土間も男女の別なく袖を濡さぬ者もあき程近年みたりき大
出来あま○同年八月〔二幅對文武搦物〕小野道風石切梶原二番目〔三度曠着首
八丈〕小髮結新三。當狂言の大暑の砌ゆゑ直下ケルて真行○同
年十二月〔黃門記童幼講釋〕小稻葉石見守。船頭河童の吉藏。藤井
紋太夫。中間小稻葉の音藏。河童の吉藏が詮義おほひ我惡事と
白状せず舌と喰切ツて死す所是迄みあき形なかりさも有るべ
と思われ又藤井紋太夫が能の囃子を鳴物よきひ仕舞の振の
立廻りの相手の伯父が仲藏ゆゑ呼吸が合て面白く後先非と悔
悟たり陰腹と切て鏡の間へ出。水府公に見頭おされ手討みある
件迄團十郎と二人りの出合一日の内に見所たり大切所作事

〔街明治世賑〕小俄の連中菊松。當狂言の何色も評よくされ月迫の
年の暮小常に喪らぬ大入あり○明治十〔戌〕月〔鬼模様曾我館
塗に鬼王新龍工門〕鹿見島〔小無名の士族〕黃門記童幼講
釈小藤井紋太夫大切淨瑠理〔柳風吹矢の糸條〕小三途川の脱衣婆。甲
子の大黒天。鹿兒嶋のたんまりの次狂言の下染ゆゑ唯其姿を見
せのりあり○同年二月〔西南雲晴朝東風〕小簀原國元。研師小川
宗治。澤元の妻か才。倉田新八郎。四役の内簀原が戦争の場り分
て評よく兵隊の指麾小勇氣を足せ数發の彈丸小身と討て落
馬をりて西條や武ノ上に面會あり痛手み屈せぬ幕切迄十指
の指さる所あり是も一場の呼物と形まり大切淨瑠理〔是珍聞
猫根津美〕小九州の士族津々木段平。實ハ新家三遊亭圓幸。噺家

の九州詞クヤクハ大受めく古めうき笑し出顔の姿が新
らしく以んちを大當り。旧地へ本普請出來、付同年六月七日
開場式を行ふ何事も小禮服を着し舞臺中央めく團十郎は續
き座主守田勘弥が代り開場式の祝詞を讀み跡吉例式三番元
祿踊り三人石橋み三番叟に猿樂師あり。○同月〔松栄千代田神徳〕
小木下藤吉後、羽柴筑前守秀吉。鳥取半藏。柏原小平太恭政。野沢
弥十郎大切所作事〔牡丹蝶扇彩〕小猿樂師寺嶋主殿。元祿踊りハ
菱川風の古風な姿が目新らしく三人石橋ハ金色輝く能衣裝
ゆゑ目ざすく立派なり。○同年八月〔舞臺明治世夜劇〕ハ大傳
太田新六郎助友。青山の召仕が菊。同亡。早川主水。實ハ寺嶋三
治。血屋舗ハ三度目ゆゑ年功積みて以前ハまさきり。○同年十月

〔日月星享和政談〕中幕〔三張弓千種重藤〕大切浄瑠理〔女夫同士意
裏表〕享和政談ハ旅役者宮川牛之助後、延妙院日當。非人小栗
の馬吉。日當も大出來ちれど分て馬吉ハ一日の内同ト様なむら
乃場が二三度ありとあつく模様と替て致せし世話ハあけ
てハ小栗ハ縁阿の鬼鹿毛の鬼といふ。○同年十一月夜芝居〔假名
手本忠臣藏〕毎日替りに足利直義公。高の師直。桃井若狭之助。塩
治判官。加古川本藏。鷺坂伴内。大星由良之助。芥九太夫。石堂右馬
之丞。山名次郎九工門。芥定九郎。早野勘平。千崎弥五郎。不破数右
工門。一文字屋才兵衛。せげん源六。狸の角兵衛。おかる母おかや。
寺岡平右工門。大鷲文吾。大切浄瑠理〔東花一座顔見世〕ハ平親王將
門。ハ打連幸右工門。毎日替りの初めて故世間一般の評判とな

子棧舗の切多と五日分續けて求める人などありて暮々似合む
大入なる軍殊み浄瑠理ハ三都の顔見勢みく京の八乙女大坂の
手打江戸とひびき昔ハハの毎年あり一暫くと久しぶりにて
勤めくく芝居好事の御連中ハ多と打て悦びたり○明治十
乙卯年一月〔毎日替の忠臣蔵〕大切三都の浄瑠理と預り〔積戀雪關
扉〕ハ良峯の宗貞關守関兵衛実ハ大伴の黒主墨染櫻の精やとり
三役を毎日替りに勤む○同年二月〔赤松満祐梅白穂〕ハ赤松五
郎教康中幕〔勸進帳〕二番目〔人間萬事金世中〕ハ惠府林之助大
切浄瑠理〔魁花春色音黄鳥〕ハ日分貸鳥のかこの孫二番目の金の
世中ハ西洋の演劇を池の端乃先生より承り一と其終ハ彼地
の事を日本乃横濱の事ハなせハ腹を抱へる笑ハ有りて

狂言の評もよく海岸の場乃灯入の月ハ時く雲の拭る仕掛ハ
梅幸乃好々ハ月の評能きゆ志に此場ハ一層光りを増した
ア○同年五月〔終合於傳假名書〕ハ波之助女房玉橋ハ傳人力車
素走の虎吉中幕〔花洛中山城名所〕ハ水戸宰相大切〔昔綉廓鞘當
鷲の者彫物連治玉橋於傳ハ多まり役ハ多拵ハ万端申分なく
中にも丸竹の二階の場ハ新内もやりの明烏延壽太夫の獨吟を
殺ハの件ハ多めこのハ古ハ趣向も新らハハ此場ハ一の佳評なり
○同年九月〔源平布引滝〕〔漂流奇談西洋劇〕奥州旅行中ハハ
出勤ナリ○同年十月〔鏡山錦艳葉〕ハ大月源藏後大月藏ハ浦
井の若徒曾平次大切浄瑠理〔中宵宮五人俠客〕ハ男達根岸の松
右工門ハ犬月源藏ハ色気のある立敵みて當時梅幸に限る役故

幕毎み評判よく大詰篋牢の場乃立腹の祖父傳來申分多く
居所替りに三上山より湯島乃祭りの道具おなり五人男、花やの
あく打出し際み評判よく○明治十三庚辰年一月〔御存白石翁〕
に与茂作娘おめが。昨年の奥州行の宮城野信夫の事跡を尋ね
だくやかまアの实地を聞きせりふに余程用ひくも中幕〔桃山
譚〕二番目〔劇春霞網嶋〕〔滑稽膝栗毛〕おい出勤なり○同年三月〔日
本晴伊賀復讐〕お沢井又五郎。町奴夢の市藏。大切所作事〔六歌仙
狂画墨塗〕お喜撰法師。一番目の伊賀越の御家と世話の裏表お
て備前町に名も異く上ヶ羽の蝶乃定紋お夢と異名の市藏が瘡
の病お半兵衛よと貫ひし薬が毒薬にて無念お苦しむ幕切迄
かやうな役の得意ゆゑ申分多く大出来なり○同年六月〔星月夜

見聞實記〕お由利八郎惟久。古郡新左工門保忠。二番目〔霜夜鐘十
字辻莖〕に查官杉田薫。大切浄瑠理〔首尾四谷色大山〕お大山参り
兼松。一番目の星月夜は由利八郎の郎内へ泉の小次郎親平が同
士をかやうい切込にし首模様を今ふうりし目前を替へ仕らばしハ
毎度おのの感心せり又霜夜鐘の杉田薫はきのお乃妻をけふ見る
如く巡查の職務を尽されし世評の能きハ狂言を仕活さし故
あるべし○同年十一月〔茶白山凱歌陣立〕お木村長門守重成。今錯
人加藤弥平次。二番目〔木間星箱根鹿笛〕に海老屋の娼妓おさよ
実ハ九郎兵衛女房おさよ。葉茶屋岩淵与七。二番目の娼妓おさ
よハ士族の娘の以前が見へ箱根山で夫を殺さし後九郎兵衛
が神経病で我のを見ゆる開化の幽霊他へ見へぬのが猶を去く

壁へほんやり消るのい人をも遣りて奇と妙と又与七が兄の悪業に困る内ふも兄弟の实意の名ゆるい感心なり○明治十四辛巳年一月〔松梅雪花三吉野〕に菅原の道実公。後室覚壽。判官代照國。宿根太郎。土師の兵衛。偽迎ひ弥藤次。舍人松王丸。同梅王丸。同櫻丸。氏原の時平。武部源藏。春藤玄蕃。よづれらり。与太郎。いごの権太。主馬の小金吾。鮎屋弥左工門。同弥助。梶原平三景時。佐藤忠信。源九郎狐。源の義經。返り坂の藥因坊。横川の覚範。先年の忠臣藏にちよひひ何きも毎日替り小勤む同年三月〔天衣紛上野初花〕御家人片岡直次郎。桜井新吾。実ハ直次郎。札差伊勢屋清三郎。直次郎。中幕〔千代誉松山美談〕小役なり。通一狂言の直次郎の打イ附のちより役も出る幕毎も仇矢なく中にも的大當

つゝ入谷田甫の立廻り道具の好む鳴物の詠へがよく佳評あるも降り積む雪よる年功を段く積一故ちよるべし
○當五月狂言より梅曆君の厚意を仰ぎ千代見草の跡と嗣ぎ壽き長れ菊の栄えと年を重ねて次編と作り再び愛顧の諸君子へ一小冊を配呈たまさんと梅幸員負の魁ある素行竺阿彌老人が催主と形して己も又次編の筆者とちよるべし

千代見草尾
○昔は見れば花の葉の影も
さかすかに見ゆれば花の影も
さかすかに見ゆれば花の影も
さかすかに見ゆれば花の影も
さかすかに見ゆれば花の影も
さかすかに見ゆれば花の影も
さかすかに見ゆれば花の影も
さかすかに見ゆれば花の影も
さかすかに見ゆれば花の影も
さかすかに見ゆれば花の影も

千代見草尾

